

平成15年9月7日
北海道電力株式会社

泊発電所2号機 再生熱交換器室内における漏えいについて

泊発電所2号機(加圧水型軽水炉、定格電気出力57万9千kW)は、定格熱出力で運転中のところ、格納容器サンプの水位に上昇傾向が認められたため、調査を行った結果、原子炉格納容器内の再生熱交換器室において1次冷却水の漏えいを確認しました。(本日、13時50分)

そのため、原子炉から1次冷却水を抽出する系統を、再生熱交換器を経由しない別の系統に切り替えました。

系統切り替え前の漏えい率(約4リットル/h)は運転上の制限値(2,300リットル/h)を十分下回っており、また、系統切り替え後は漏えい率が低下したことから、漏えいは停止したものと推定されます。

漏えい箇所および漏えいの原因は、現在調査中です。

なお、今回の事象による外部への放射能の影響はありません。

泊発電所 概略系統図は別紙をご覧ください。

泊発電所 概略系統図

